

東由利村報

No. 120 1967・7・1

発行 東由利村役場
毎月1日発行 定価1部5円
印刷 KK本間印刷所

村長選挙 日程きまる

投票日、7月29日

村の選挙管理委員会は、8月19日で任期が満了するための村長選挙の投票を7月29日に行う旨、7月21日に告示することに決定しました。

いうまでもなくこの選挙は私たちに代って村の仕事を切りもりする役目を荷なう首長を決める村の厳しゆくな行事といえましょう。

ところで村の選挙は一番身近なものだけに一層因ねんや情実などがからんできますが、これに負けることなく、村の仕事をみずから切りもりする積もりで、自由な立場で、汚れない明るく正しい一票を投ずることが、私たち住民の心意気あでり大事な姿勢ではないでしょうか。

(選挙管理委員会)

海上自衛艦の公開

海上自衛艦が次のとおり入港して、一般に公開して見学させ、体験航海も実施するから多数ご見学下さるようにとのことです。

記

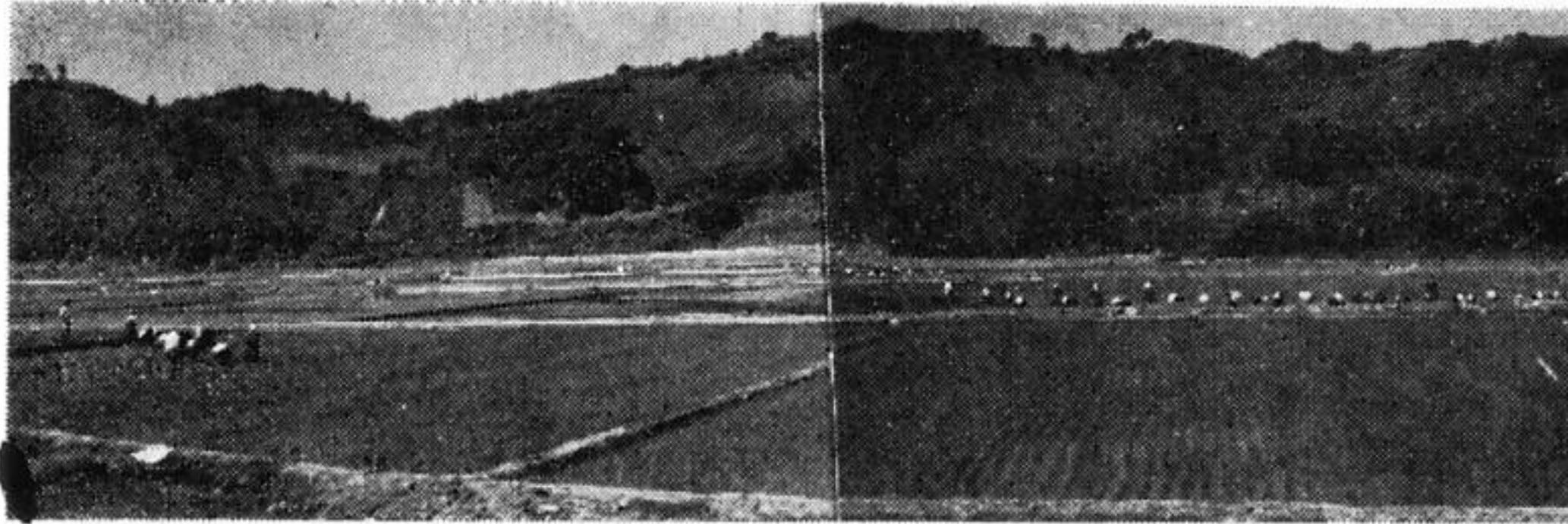
1 日時 7月20日～22日

2 場所 秋田・船川港

3 艦種 秋田港～ゆきかぜ
きたかみ
船川港～もがみ
いすず

4 行事 秋田・船川共に
一般公開：20日午後1時から3時、21日午前9時から3時
体験航海：22日午前9時から午後3時

5 艦の紹介（全部国産）
ゆきかぜ～大型・旗艦
きたかぜ～1,490トン
もがみ～1,490トン
いすず～1,490トン



田植のうた

3反歩田を植える。3反歩田を植える。
法内から、大琴からの応援の人たちと共に田を植える
坭を飛ばし空気をふるわす大型機械
機械よ！これから先も頼んだぞ
雨の日 風の日 吹雪の日
3年間の積もる努力で生れ変つたたんぼの顔
3反歩田を植える。3反歩田を植える。
100メートルのむこうに着けば3反歩
構造改善事業もこれでゴールイン

第3回定例村議会

6月28日定例村議会が招集され、次の5議案を原案どおり可決し、陳情5件を処理した。

□村長村政一般報告

○9千万の大事業である農業構造改善事業2年度分も田植をおわった。

○石田坂堤防は、企画庁の調整費から3,600万円を出してもらうつもりであったが、河川改修費（建設省）でやってもらうことになった。

○7月13日知事が矢島からこえて来る。基幹林道を雄和村より秋田市に至る道路にも結ぶよう、関係町村の代表者が袖山小学校で話し合いをする。

□一般質問

教育の機会均等

長谷山喜市郎議員

(1)体育施設・音楽関係の施設に格差が大きい。今後どうするつもりか。

(2)あり得ないことだが、議員も知らない積立金があるといわれているがどうか。

(1)について教育長

体育施設については大して格差がないと考える。音楽室のない学校には学級減による空教室をあてることにしている

(2)について助役

条例によるもの以外はありません

出稼者の要望

岳石伊左武郎議員

出稼者から「村としてもっと集団的に就職させ、村や議会で職場訪問をしてもらいたい」という要望がある。村としての考えを承りたい。

村長、出来るだけご意見にそようつとめる。

村歌村章の制定

伊東与吉議員

(1)村歌・村章を定めるため、村報で募集してはどうか

村長、必要あり、全面的に賛成である。

(2)村の財政計画を明らかにす

る必要があると思うが

助役、44年までの官行造林の伐採計画はたっており、45年のブランク（空白）について対策をたてている。

ブルドーザー

小社真一議員

ブルドーザーをフル運転して奥地産業の開発を援助してもらいたい。

村長、運転士のことを考えフル運転出来るように努力する

山林開発

小松与惣雄議員

山林開発公団の運営について折衝した結果を伺いたい。

岳石山林係

まだ具体的に進んでいないよう聞いている。

工場誘致

佐藤要次議員

工場誘致についての考え方を承わりたい。

村長、工場誘致条例をつくって促進をはかりたい。なお現在工場設立の申込みがあるが3、4年後に40人位の工場になる見込みである。

ボーリング

佐藤謙吉議員

3月議会で話し合った産業開発のためのボーリング問題はどうなっているか。

村長、まだ陳情書は出していない。

■ 議案

第1号、町村議員退職手当組合規約の一部変更

第2号、村税条例の一部を改正する条例

第3号、国民健康保険税条例の一部を改正する条例

国民健康保険税率

1、所得割、百分の1.3

2、資産割、百分の14.7

3、被保険者均等割、被保険者1人につき、790円

4、世帯平等割、1世帯について、1,670円

第4号、42年度東由利村一般会計補正予算

才入才出の予算にそれぞれ3,624千円を追加し、才入

才出の総額をそれぞれ1億

7,423万8千円とする。

□才出の重なるもの

土木費230千円、土場高屋線

消防費346、第9分団ポンプ

教育費618、教員住宅等

災害復旧費、358、テレビ道

農業費、386、多収穫集団

畜産業費、659、家畜診療所

運営費補助

第5号、42年度国民健康保険

事業勘定特別会計補正予算

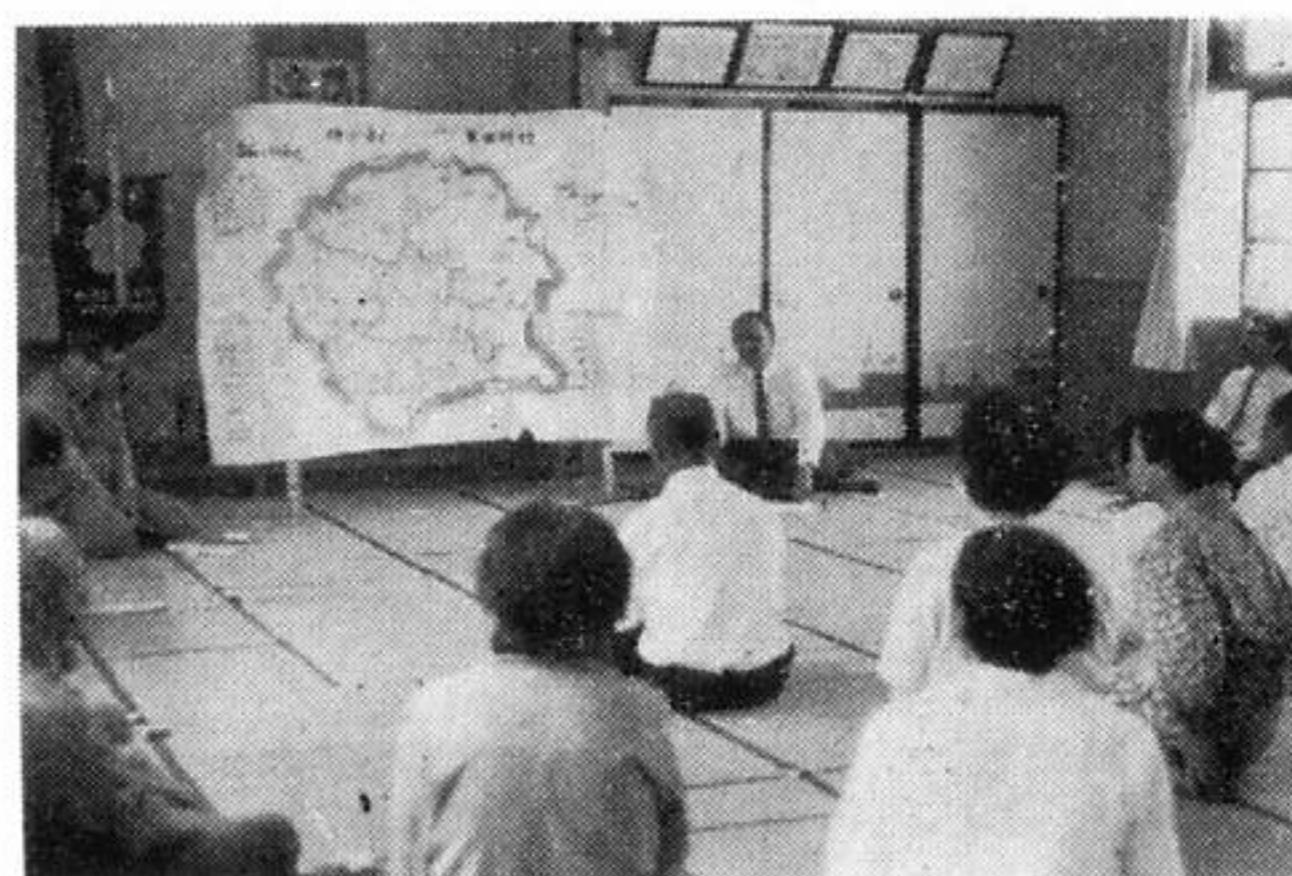
以上原案どおり可決

■ 陳情書

2、岩館橋架替工事について
お願い。採択

3、本荘高校下郷分校新校舎
建設、採択

移動村民室開設



六月二十七日
移動村民室

5月4日黒淵部落から始めた移動村民室は、途中田植のために中断したが、6月8日から再開し、7月3日老方下通りを最終に全村64部落に実施して終了した。

これは村民の1人1人に村政のあり方をよく知らうため、村民の率直な声を聞いて村政の上に生かしたいというのが目的で、村側からは村長・助役・関係課長・それに議会側からは正副議長地域の議會議員にも参加してもらって行われた。

要望のうちどこにも共通して一番多かったのは道路関係で、牧道・林道・農道など産業開発に関するものであった。これらの道路は奥地開発にはぜひ必要なものである。道路を通すために最も障害となるのはつぶれ地のことであるが、これは関係地域の協力によって解決してもらわなければならぬ。

○農業構造改善の影響で、宿部須郷方面などでは開田がおどろく程盛んであり、小型ブルドーザーの設備が望まれている。

○酪農も地域によっては本格

的に根をおろして来たところがあり、年間200万円を目標に計画を進めている青年もある。黒沢部落では田の区画を整理し、この消力を浮んだ労力を酪農にふりむけなければならないといっていた。

○山林経営については、各地とも植林が熱心に行われるようになったことは誠によろこばしいが、まだ分牧林などやっていない部落もあるので、早速始めるようおすすめする。私有林についても雑木を立てて、自然に成育するのを待って、伐って行くというこれまでのような放任経営は不経済であるばかりでなく許されなくなった。国では所有権と使用権とは別に考え、個人で経営出来ない者については公團で能率的に経営する方針をたてています。

○学校の統廃合などについては法内の外は余り話題にのぼらなかったが、事態は深刻である。道路の整備除雪などの対策を急ぎながら村民の理解を待って解決しなければなるまい。

○移動村民室を全村に開いて

(3面につづく)

(2面からつづく)

見て、強く反省させられたことは、村政を、村の実体を村民に知らせてもらうことを余りにも怠りすぎていたということである。

広報や、社会教育や、あら

村 政

1. 村の山

条例に定めて村で経営する山は、直営林・分取林・入会林・原野採草地・貸付地の六つの形態に分れており、その外に官行造林と玉米財産区があります。

このうち村財政に關係の深い直営林・官行造林・玉米財産区についてのべることにします。

■ 直営林

直営林は村の財産をつくる一番大きな事業の造林です。合併当時直営林は合併条件により、旧玉米村地域は昭和21年以後の立木、(昭和20年以前の立木は財産区)旧下郷地域は中の沢山等の小範囲の部分にありましたが、当時の年間植林も少なく、36、37年頃よりは20haを越すようになりました。

今年度の目標は46haで今次施業計画が終る45年度は造林面積426haになる見込みです。

村の計画は年間20ha以上の植林、40年伐期を目標にしております。

現在までは保育の段階で、主伐はしておりません。

明43年度よりの収入見込みを見ますと、

43年から47年までの5年間

年に 10万円~17万円

48年から58年までの11年間

年に200万円~600万円

59年から75年までの17年間

年に 1千万円~8千万

76年から84年までの9年間

年に 1億円~1.5億円

この合計は17億2千8百万円となる見込みです。

■ 官行造林

官行造林の契約面積は843

ゆる会合の場をとおして、村の実体を知らせてもらうことに努め、正しい理解から生れる愛情により、みんなのためのみんなの村を、みんなの力でつくらなければならないと考えた。

読 本

haで除地(樹の植えられない処や道路)を引いて763haです。

昭和40年までの伐採は58haで村に入った金は4,598万円で、今次施業計画による41年度より45年度までに伐採する面積は81haで約5,600万円の収入になる見込みです。

昭和45年までを合せますと伐採面積140ha 1億2百万円の金額となる見込みですから、後に残ります面積、623haでは相当の収入があるものと思われます。

■ 玉米財産区

昭和30年の合併後40年までに使った金額は6,915万円で41年への繰越金は189万円、使いみちは次のとおりです。新庁舎への寄付金の外は全部旧玉米地区のために支出されています。

教育—2,915万円、消防—421万円、部落—1,487万円、林業—676万円、農業—1,228万円、新庁舎—300万円、財産区管理—214万円

残りは見積りまして約1億円位です。

財産区の財産処分については、玉米財産区管理条例により、財産区管理委員会の同意と議会の議決がなければ、処分が出来ません。

2. 村債(村の借金)

村のカマドの持ち方も一けん一けんのそれと少しもかわったことがありません。ふだんの暮らしに使う金(経常費)はきまってはいって来る金でまかなう(健全財政)ことを固く守っています。

しかし災害の復旧・村を豊かにする事業への建設投資な

どのためには、どうしても借金しなければならない切ない時があります。

村の借金は本年度の起債予定額1,100万円を加えて年度末には5,334万円となります。その中に減税補てん債684万7千円があり、これは減税分の借金で国が支払ってくれる借金です。又、住宅改良資金貸付事業債332万円がありカヤ屋根解消などの資金で村で借りて村民に貸している借金です。これ等は村のお金では支払しなくともよい借金です。

造林融資2,470万円、20年据置10年償還年利3分5厘の有利な借金もあり多い借金ではないと思っています。

40年度の決算によると秋田県65町村のうち村債は少い方から数えて10番目、由利郡では西目・金浦(合併しない町村)について3番目です。

3. 村の積立金

村債とは逆に、39年条例第8号「東由利村財政調整基金条例」による積立金があります。これは主に教育や土木関係の事業受入れのための用意で、現在3,188万円あります。が、今年中土木関係に800万

円を繰出し使用することになっておりますので、年度末には2,388万円となります。

4. 村長交際費

この年額は約120万円です(当初予算80万円)他町村では村長・議長・各種委員会など別々に交際費を予算計上していますが、本村では村長交際費一本にまとめています。それでも他町村の交際費にくらべてはるかに少い額です。使いみちは明らかにして係員によって支払われています。道路や橋は勿論、農業構造改善に伴う諸事業、堤防その他の単独ではなし得ない、県や国の援助を得なければならぬ大きな事業が他町村とくらべものにならない程大きく我が村では行われています。

このためには知事を始め、国会県会の議員や関係の係官などに村の実情をよく、見てもらわなければならぬし、好感を持ってもらわなければならぬ。要望や請願のためには県や国に出て行って、たえず連絡をとらなければならぬ。又町村としてのおつき合いもあります。そうしたことにしてこの金が使われているのです。



中央帶課長

石田坂堤防調査

6月8日、企画庁帶經濟企画課長による石田坂堤防の実地調査が行われました。

午前11時村長・助役・議長役場係職員が奥ヶ沢まで出むかえ、帶課長・県係官10余名と共に島宮橋に着いた。

橋上で帶課長は現地を見な

がら、図面と合せて県係官の詳細な説明を聞き、石田坂に行って更に実地調査を行った帶課長の話では、「事業の性質上、企画庁の調整費をふりむけるわけには行かないが、よく県と話し合って対策をたてるがよい」とのことであった。

郷土史夜話

(8) 小笠原式部少輔光國の墓碑のナゾ

老方泉秀寺境内の墓地に同時開基と伝えられる小笠原式部少輔光國の墓碑がある。号して「玉米院殿梅岩高公大居士」

この光國は由利十二頭の一人玉米小笠原氏であることは間違いないと考えられるが、元禄7年の「玉米古来聞書」によると、信濃守義満・弥三郎義次の名は出てくるが、光國の名はみえない。しかもこうした古來書の写本の末尾に玉米三代として光国—義満—義次と書かれたものを散見するが



その根拠がわからないので事実の判断はできない。

先にいった「玉米古来聞書」は、現在村に残っている十二頭時代の消長を物語る唯一の資料で、これから推して義満以前の人物だろうと考えられるが、問題は墓碑の前面に戒名と一緒に彫られている元和元年□三月五日の年月日である。

元和元年(1615)といえば大坂夏の陣で豊臣氏が滅亡した年であり、その頃はすでに由利十二頭は終りをつけ、由利郡は最上義光の家臣楯岡(本城)豊前守満茂の領有下にあった時代である。

したがって、この元和元年は光國が存在したであろうと考えられる時代より後のことであり、墓碑が建てられた年であるとすれば納得もいくが、戒名と一緒に彫られていることからすれば死亡した時の年月日と考えた方が順当のようであるし、光國の存在とこの年号をどのように結びつけるかこれを郷土史研究の今後の課題の一つである。【正】

老方局電話新設

249番中津川 俊雄	老 方	368 阿 部 朝吉	横 渡
255 千葉覚太郎	島 田	6368 伊 東政太郎	"
256 阿 部 貞雄	藏 新田	370 嶽 石 忠司	横 山
257 畑 山 貞夫	家の 下	6370 佐 藤 愈	八 日 町
258 小 野 貞男	老 方	350 村 上 種次	西 の 浜
6258 小 松 与一郎	"	371 小 松 喜一郎	"
259 小 松 昌樹	八 日 町	372 佐 藤 儀平	寺 田
265 遠 藤 讓悦	藏	6372 佐 藤 粱二	"
266 千葉添次郎	"	373 志 村 三男	西 の 浜
6277 森 川 昭児	老 方	374 小 松 茂	上 野
363 榎 野 忠義	館 合	369 佐 藤 万次郎	藏
6363 小 松 正昭	"	6369 阿 部 剛	"

奥地開発幹線道路着工

秋田県産業道路の協議会は6月7日開かれた。我が村を通る真室川から神宮寺に行く路線に笹子地区で今年度、2,700万円の予算がついた

この計画が完成すると、袖

山・法内にも7m巾の舗装道路が通ることとなる。

自衛官募集

昭和42年度第2次2等陸士・2等海士・2等空士の募集が次によって行われる旨、防衛庁からの通知により告示があったのでお知らせします。

ご希望の方は役場の係におたづね下さい。

記

1 第2次募集期間

昭和42年7月1日から9月30日まで

2 試験場、

7月21日、8月25日、9月22日、

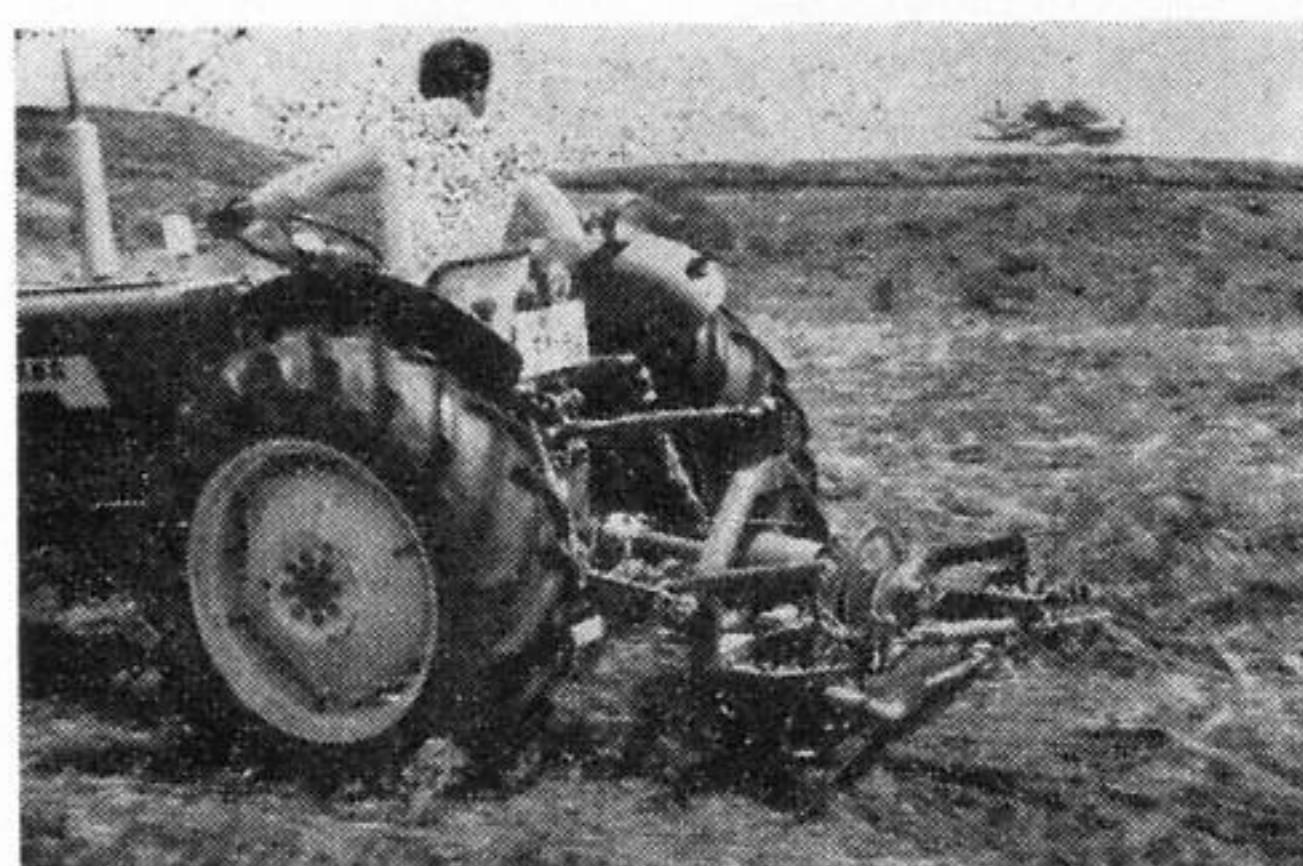
3 試験場、本荘保健所、

大型草刈機

6月12日、放牧場利用組合で若林と長根谷地の放牧場で大型草刈機で草を刈るからというので行ってみた。

何しろ1日7haを刈る能力があるというのだからその威力は大したもので、15度以上の斜面でも面白いほどかんた

六月の山のみどりは学びやをつむがごとし住吉の里新しき山のみどりは教室の窓に流れ来初夏の午後校庭にみどりのひかりうららうらら影を踏みつつ子らは遊びどどどど田を掘る音は教室に字を書く子らの耳にとどき来裏山の林に来て啼く鳴の声を聞き居り朝の目ざめに



木内衣料工場

操業を始める

新町の東北化工につづいて、今度は横小路に木内裏地卸商加工部(木内勇二氏経営・営業本社埼玉県与野市)が操業を開始した。現在のところいづれも経営規模は大きくなりが、次第にこうした工場が進出し、また工場拡張が計画されてきているのは、農村の潜在労働力が利用できることと、村の道路が整備されていることが何よりの条件となっているが、同時にこうした村

出身の経営者が何らかの形で、いわば親心によるところが大きい。

さらにこうした人たちのほん走により、他の工場も進出の気運があり、現在具体的に話しあいが進められているのは、この木内工場のつながりから衣料製造太平工業KKの工場建設がある。

こうして農業経済一辺倒であった我が村も次第にその様相を変えつつあるが、村ではさらにこうした気運を助長するため工場誘致条例の検討を進めている(写真次号)

六月の山 山田礼智

東由利村報

No. 121 1967・8・1

発行
秋田県東由利村役場
発行日
毎月1日(1部5円)
印刷
KK本間印刷所
昭和42年7月21日
第3種郵便物認可

ようにしていただきたい。
(青少年対策室)

成人式・8月15日

昭和42年の成人式は前年どおり8月15日・午前9時30分より役場で行われます。

成人式の該当者は昭和21年4月2日から22年4月1までに生れた人です。

近く案内状が発送されます
が、就職などで転出している
人でとくに村に帰って参列を
希望する方は、至急教育委員会
成人式係まで連絡して下さい。

交通水難事故緊急対策協議会

この会は県の緊急指令によ
つて7月27日、体育指導員・
青年会長・婦人会長・児童委員・
子ども会世話人代表・P
TA会長・警察側・交通安全
対策協議会・交通安全協会など
の参集を求め、県側から派
遣された県警本部交通部長佐
野岩三郎警視・厚生部福祉課
安藤氏を中心に協議が行われ
た。

安藤氏よりは水難防止、佐
野氏よりは交通事故防止につ
いて、説明あり、一般県民の
強い協力が求められた。

それより参会者の質問と意
見の発表となつたが、水難防
止については、25日夏休み前
の校長会で協議の上、こまか
いところまでの対策をたて、
児童生徒を通じて各戸に配布
してあり、各部落毎に地域の
実情に即応して対策を実施し
ている段階なので、その計画
を再確認し、決意を新たにして
事故をなくすこととし、県
に対しては「時機を考えて実
際に役立つように計画してもら
いたいと要望した。

交通安全については、実例
について色々話し合つたが、
結局交通道徳の確立は大人の
姿勢を正すのが根本であると
結論づけた。

■ カツバ天国

かんしの小父さんもニコニコ顔

小笠原彦次氏葬儀

7月14日なくなられた小笠原彦次さんの葬儀は17日蔵立寺で故人の遺徳をしのぶ会葬者多数参列のもとに行われた

氏は資性温健中正、至誠をもって生涯をつらぬかれた方で、少壯時代から特に畑作の研究に精進せられ、甘譜の貯蔵法を始めたたくさんの新らしい技術を広めておられます。

昭和12年下郷村村会議員として17年まで5カ年間村政につくされ、昭和24年中央部農業協同組合長、26年下郷村共済組合長に就任、昭和40年まで14年にわたり組合事業に専念せられた。組合の強固な基礎は全く氏の力によるところあります。

昭和37年11月、東由利村表彰条例によって功績章を贈られました。

8月20日は 「家庭の日」

- 夏休みを反省しましよう
- 1 きまりよい生活が出来たかどうか
- 2 早ね早起き・勉強と遊びの時間がよく守られたか
- 3 うちの仕事の分たんをよく果したか
- 4 どんなふうにからだをきたえたか
- 事故防止について話しあいましょう。
- 1 道路で遊ばないか
- 2 通学の途中など事故のないように交通規則をよく守っ

ているか。

■ 農休日・公休日を「家庭の日」に合せるよう ■

毎月の第3日曜を「家庭の日」に定めて県民運動を進めてから、農休日ならびに一般商店事業所等の公休日を調整して、出来るだけ「家庭の日」に合せるようお願いして来たところでありますが、せっかく県が「家庭の日」を第3日曜に設定しながらそれぞれの理由から農休日、公休日をバラバラに実施している実情にかんがみ、関係機関・団体の協力を得て「家庭の日」の普及推進をはかるため、今後は出来るだけ農休日ならびに一般商店・事業所等の公休日を第3日曜に合せて実施する

東由利村長選挙結果

任期満了による東由利村長選挙は、7月29日行われ即日開票の結果次のとおり決定した。
当選、小松 栄男、2,565票
落選、阿部直一郎、1,901票

当日の有権者数、	4,684
投票総数、	4,479
投票率、	95.62%
投票総数、	4,478
有効投票、	4,466
無効投票、	12



出羽山地縦貫林道開設工事促進陳情

黒沢林道が近く完通する



黒沢林道は、矢島町一東由利村一大内村一雄和村を経て秋田市に通ずる重要な道路で沿道には厖大な山林資源がある。これを早く開発するため関係4カ町村では、「出羽山地林道開発推進協議会」をつくって事業の推進に努力して来た結果、未開修個所は黒沢~井戸台間5,400mだけ

となった。

これをより早期に開発してもらうための陳情が7月13日袖山小学校で行われ、関係4カ町村長・東由利村議會議員・袖山舟打場大吹川須郷の部落民が集合し、協議会の要請により、矢島町から基幹林道軽井沢線を視察して来た松橋副知事・林政課長等県庁関係職員20余名をむかえて開催された。

始め林政課長より全線にわたり詳細な説明、副知事の力強い協力を約束する挨拶あり、矢島・東由利両首長の希望にあふるる感謝のことばでおわった。

一行はさらに切迫した時間を割いて、石田坂地区堤防計画を視察して羽後町にむかわられた。



写真 上 副知事あいさつ

下 茶屋長根についての副知事一行

右上 説明会

水上安全法講習

近年まれな暑さのせいもあって、全国的におびただしい水による死亡者が多く出ている折柄、7月26日午後1時から藏小学校で「日赤水上安全法」の講習が行われた。

受講者は小中学校教職員・部落長・子ども会世話人など多数で、日赤水上安全指導員佐々木金一氏の指導により、次のような方法を熱心に実習した。

指導事項

1. 溺者に近よる方法（逆行の姿勢）
 - イ、後方より近よる方法
 - ロ、前方より近よる方法
2. 溺者を運ぶ方法
3. 溺者に抱きつかれた時、それを解く方法
 - イ、前から抱きつかれた時
 - ロ、前から頭を抱かれた時
 - ハ、前から首に抱きつかれた時
- ニ、後から首に抱きつかれた時
- ホ、片手で片手をつかまれた時
- ヘ、両手で両手を

4. 溺者を水中から上げる方法
5. 二人抱き合っておぼれようとしている時
6. 水中ケイレンの起きた場合
7. 人口呼吸法

ニルセン式、口から口へ法人工呼吸は分秒を争うて早く実施すべきで、水をはかせたりして手間取ることなく、すぐに始めること。

おぼれてから1分以内に始めた場合は97%ほどの効果があがっているが、10分以上経過してからでは容易に効果があがらない。

8月は個人事業税の納期

8月は個人事業税の納期です。県ではみなさんから納めていただく税金や諸収入で豊かな住みよい郷土作りに努めています。

「今月は個人事業税の第1期納期です」

財務事務所から納税通知書が届きましたら8月31日の納期前に、はや目に納付して下さい。県税は、郵便局・銀行・信用金庫で取扱っている外、直接財務事務所に納めることも出来ます。

納期を失しますといろいろ手続きがめんどうになり、お互に迷惑しますので、期限を忘れないよう注意して下さい。（由利財務事務所長）

7月1日から

印紙税が改正

7月1日から新しい印紙税法が適用されることになりました。みなさんに関係の深いものはつぎのとおりです。

①金銭の受取書

1通につき20円（記載金額1万円未満のものおよび営業に関しないものを除く）

②有価証券の受取書

1通につき20円

③通帳

1冊につき40円付込み1年間

④判取帳、1冊につき400円付込み1年間

通帳判取帳については最初の付込み月日が作成月日となりますのでご注意ねがいます。

なお、この他の税額についても全部改正になりましたので不明の点は商工会におたづね下さい。

郷土史夜話

鉄砲の名人 牧新右衛門

由利十二頭の一人、下村藏人奥長の家来に牧（一説に真木）新右衛門がいた。

根城館に仁賀保と庄内の連合軍が押寄せ、石沢川を渡って攻めてきたとき新右衛門は鉄砲で馬上の侍を川に打落とした。その侍は庄内のかも（加茂）出身であったため、敵が流れた死がないを引上げた場所の田のあざ名を「かもざむらい」といったというが、はたしてその地はどこだろうか。

その後新右衛門は、保呂羽山にこもった仙北勢の攻撃にも加わり、鉄砲で53人も打殺したので、その威力によって和談がとんとん拍子に進んだという。以上は元禄7年の「下村古来物語」に書かれている牧新右衛門の武勇談である。

保呂羽山攻撃のとき53人

- ⑨ も鉄砲で打取ったという記述は少々オーバーな気もするが、牧新右衛門

の存在は事実だったようだ。古来物語には矢島出の侍で、子孫はその当時、新助といったと書いてある。

ところで牧新右衛門が活躍した両度の合戦の時期はというと、根城館の戦いの場合、高橋孝二郎先生が編集した郷土史年表によると天正年間とあり、原典はわからぬが大体その頃だろうと考えられるし、保呂羽山攻撃は古来物語に「下村殿の後……」ということと「和談になった」という記述から、慶長5年関ヶ原の戦いと前後して上杉勢に味方した小野寺党を最上あるいは秋田氏とともに由利の軍勢が攻撃しているので、このときでないかと推察される。ちなみに下村殿はこの当時すでに滅亡していたので、新右衛門は浪人としてこれに参加したのかもしれない。

宿健児団50周年記念式

物故団員大法要

7月15日宿・巾野両部落では、健児団の50周年祝賀会と物故団員追悼大法要を行った。

健児団の創立は明治44年8月15日で今日まで実に57年を経過している。小野繁記氏等当時の青少年が自発的に結成したもので、団則第2条に、「本団は智徳の修養・公共精神の発達をはかり、独立独行風俗の矯正並びに勤勉貯蓄の美風を養成するを以て目的とす」と立団の精神を明確にし、団歌の始めには「照々もらさず日吉宮」と神社中心の団結をうたい。「静かに待てや健男児、智徳と稱の育つ日を」と結んでいます。

■ 団の運営

団の運営は総会を中心に行われ、毎月旧15日月明の夜を日

感謝状ならびに記念品を贈呈し、団の基本財産杉5600本の植林地は部落に寄託することとし、今回をもって健児団は解散し、部落づくりより村づ

くりの推進に努力することを申し合せた。それより遠来の旧団員を交じえ、一生一代の盛宴が行われた。



追悼会



記念斎園（墓地）

東由利村社会人野球大会

大会期日 8月16・17日 大会場所 台山グランド
組合せ

1 住吉	1 16日 8.00 A	2 17日 10.30 A
2 新町	4 16日 3.30 A	
3 玉米青年会		
4 館合製材	2 16日 10.30 A	
5 玉米農協		1 17日 8.00 A
6 宿	3 16日 1.00 A	
7 蔵ローズ		3 17日 2.00 A
8 老方クラブ	1 16日 8.00 B	
9 郵便局		4 16日 3.30 B
10 袖山		
11 法内	2 16日 10.30 B	2 17日 10.30 B
12 玉中OB		1 17日 8.00 B
13 谷地町	3 16日 1.00 B	
14 役場		

■ 主な公共事業

植林地の収入により、ポンプ置場、部落会館の建設、昭和22年の洪水による宿橋、下吹橋の架替え、宿橋取付道路のつぶれ地代償支払いなど。

■ 50周年記念事業

宿・巾野・下吹の共同墓地を拡張整備し、50周年記念斎園をつくった。この経費のうち35万円を支出す。

■ 追悼大法要

先輩団員物故者35柱の靈をとむらい、団員全員で新たに整備された記念斎園に卒塔婆をたて香華を手向けた。

■ 記念祝賀会

永年にわたる団の功労者に

かぶと虫動かすなりぬ教室の窓より蝉の声通り来る
その長き触角をかすかにふるはせて命の限り生きむとするも
かぶと虫いのち絶へしか静かなる黒き姿態は動くともせず
あることに帰るすべなしかぶと虫は標本をつくる子らにかこまる
六つあしをうちふるはせてあがけども針にとめられしかぶと虫
あはれ

昆蟲標本

山田礼智

第12回 東由利村畜産共進会

7月7日台山馬検場で開催
出陳頭数
和牛の部

12カ月以上	20カ月未満	20
20カ月以上		13
乳牛、ホルスタイン		
8カ月以上		10
乳牛、ジャージー		
8カ月以上		11

入賞

和牛 20カ月未満

1等賞	祝沢 小野 徳松
"	八日町小松繁太郎
2等賞	葦沢 高沢長一郎
"	宮ノ前小松 義男
"	新沢 菊地 文雄
3等賞	野田 阿部 次郎
"	新沢 佐藤 真一
"	小倉 伊東 高雄
"	大台 小松昭一郎

和牛 20カ月以上

1等賞	新田 畑山喜一郎
2等賞	山崎 小松 彦作
"	祝沢小笠原清一郎
"	新田 高橋重四郎
3等賞	山崎 小松 与吉
"	小松 良一
"	"

乳牛 ホルスタイン種

1等賞	舟木大庭喜右エ門	多く年々向上のあとが著しい
2等賞	小倉 阿部 松雄	◎乳牛の部
"	新町 宮塚 昭三	○ホルスタイン種
3等賞	下小屋佐藤文一郎	出陳牛10頭のうち発育標準
"	新町 佐藤 菊藏	に達しておるもののが半数の5
"	湯出野佐藤千代藏	頭で、体型・体質については
		一部のものを除いて皆優秀と
		拝見しました。
		発育標準に達しない牛は、
		被毛の光沢がなく、体型も崩
		れてきておりますので、今後
		一層の努力を要します。
		1等賞に擬賞した牛は発育
		標準をはるかに超えており、
		体型も伸び伸びとゆとりがあり、各部のつり合いもとれて
		營養もよく、非常にりっぱな牛と見ました。（以下大同小異につき省略）

物すごい集中豪雨



7月28日午後8時30分頃からはげしい雷鳴をともなった猛烈な集中豪雨がやってきた。村で気象観測を始めて以来かつてなかったことで、役場前の観測機の自動記録によると、下表のとおり9時から11時までの2時間に93ミリという大雨で、降り始めから終わりまで155ミリも降っている。村内でも茂沢・祝沢、特に牧山川の三つがまとまった水をとともに受けた寺田の被害は最も大きく、牛を避難させるひまもなく、軒先のテラーや耕耘機を流した家もある。

被害調（道路関係）

□茂沢線、8カ所	69万円
□祝沢線、3カ所	27.5 "
□法内線、6カ所	83.5 "
□田ノ沢線4カ所	5 "

被害額概算 305万円
外に県道老方沼館線（祝沢まで）5カ所
降雨量（28日午後）
8.30~9.00—20mm
9.00~10.00—59
10.00~11.00—34
11.00~4.00—42
計 155
この外水田の冠水・埋没の個所はいたるところにあり、折しも開花期なので稻の被害は大きい。

昭和42年度

狩獵者講習会

日時及び場所

- (1)経験者過程 8月29日午前9時、由利地方総合庁舎
(2)初心者過程 8月30日（以下(1)と同じ）

下中同窓会結成

20周年記念誌発行

下郷中学校卒業者は、6月中同窓会を結成し、創立20周年を記念して、卒業生2687名の名簿を含む記念誌の発行を計画していたが、8月10日出来上ることになった。

全県

英語暗誦大会で入賞

7月9日のこの大会に、本荘市由利郡の同大会で優勝した下中3年の小野美紀子さんが、郡市代表として出場し、4位に入賞した。

「青年の船」

一般団員募集

「青年の船」に乗って東南アジアを一まわりする希望者がありませんか。

総理府では、昭和42年度「青年の船」を実施することになり、8月25日まで、申し込むことになっておりますのでご希望の方は役場へお出で下さい。

1、事業のあらまし

①使用船 日本産業見本市協会の「さくら丸」

②運行日程 昭和43年1月～3月、東南アジア53日間

③寄港予定地 東京—キールン—バンコック—シンガポール—コロンボ—マドラス—ポートスエッテンハム—シンガポール—マニラ—那覇—神戸

④活動 ア、船内研修 イ、寄港地における視察

2、「青年の船」の団員 一般団員、男女280名、役員50名、教官・管理要員

3 参加者負担金

船内費用1人5万円以内、外に出入国その他の手続きに要する経費

4 応募資格

年令18才～26才の男女 その他くわしいことは役場に聞いて下さい。